

能登地震

「災害対応マップ必要」

子ども元気に被災地の現状報告

PJでGW三島

能登半島地震の被災家族を三島市や伊豆に無料招待し、心のケアをしようと「子どもを元気に富士山プロジェクト(PJ)」に取り組み三島市のNPO法人グラウンドワーク

(GW)三島は、同プロジェクトの一環で被災地を訪問した。このほど、三島商工会議所で現場調査報告会を開いた。オンラインを含め、市民ら25人が参加。被災地の現状や課題を

報告と今後への取り組み、支援活動の在り方「高齢者・子どもの心のケア・必要とされる福祉対策」などをテーマに語った。

渡辺豊博専務は写真を使いながら被災地の様子を解説した。いまだに通行できない道路が多く、迂回(うかい)路を探して通行したことを挙げ、課題として「ここが通行不可なら迂回路はこっちという『災害対応マップ』を事前に作成する必要がある」と語った。



被災地の現状を語る渡辺専務＝三島市の三島商工会議所